各種外科的疾患ノ手術前後ニ於ケル赤血球沈降速度及ビ白血球ノ核移動ニ就テ

其II　限局性腹膜炎ヲ伴ヘル急性蟲樣突起炎及ビ膿瘍ヲ形成セル亞慢性蟲樣突起炎

金澤醫科大學熊埜御堂外科教室(熊埜御堂教授指導)
金澤醫科大學病理學教室(杉山教授指導)
研究科學生　田　邊　重　樹
Sigeki Tanabe

(昭和13年8月19日受附)

内容抄録

余ハ今回限局性腹膜炎ヲ伴ヘル急性蟲樣突起炎ト，稍慢性トナリ膿瘍ヲ形成セル患者ニ就キ沈降速度並ニ血液像ヲ檢索シ次ノ結果ヲ得タリ．

沈降速度ハ術前兩者共ニ正常ノモノアルモ多クハ强度ニ促進セリ．術後ハ一時尙亢進シ後治癒經過ニ並行シ徐々ニ正常ニ復歸セリ．

血液像ハ術前慢性症ハ正常又ハ輕度ノ變化ヲ示シ急性症ハ著明ナル白血球增多症，嗜中性球ノ增加，淋巴球ノ減少，嗜「エ」性球ノ消失減少並ニ平均核數ノ減少ヲ認メタリ．

術後ハ兩者共ニ上述ノ變化ヲ强化スルモ白血球數及ビ百分率ハ急激ニ(3－5日目)正常ニ復ス．

平均核數ハ術後一時更ニ減少シ後順調ニ恢復スルモノト，術後減少シ3日目急增シテ術前値ニ近キ，或ハ遙ニ術前値ヲ超ヘ，5日目再ビ減少シ後良ク治癒經過ニ並行シ正常ニ復スルモノトアリ．

血液像ト沈降速度ノ關係ヲ見ルニ，赤血球數及ビ血色素量トハ一定ノ關係ヲ認メ，平均核數トハ一部ハ最初ヨリ，他ハ術後ノ動搖止ミ，一方沈降速度亢進シ病狀ト一致シテ後(5日目以後)兩者ハ良ク並行シ正常ニ復歸スルヲ見タリ．

目　次

緒　言
第1章　實驗材料及ビ實驗方法
第2章　實驗成績
　第1節　急性限局性腹膜炎ヲ伴ヘル蟲樣突起炎
　第2節　第1節總括及ビ考按
　　第1項　沈降速度
　　第2項　白血球數
　　第3項　赤血球數及ビ血色素量
　　第4項　白血球各種百分率及ビ沈降速度トノ關係
　　第5項　平均核數
　第3節　膿瘍ヲ形成セル蟲樣突起炎
　第4節　前節總括及ビ考按
　　第1項　沈降速度
　　第2項　白血球數
　　第3項　赤血球數
　　第4項　血色素量
　　第5項　白血球各種百分率

第6項 平均核數
第3章 本編總括及ビ考按
結 論

緒 言

余ハ曩ニ合併症ヲ有セザル急性蟲樣突起炎ニ就キ赤血球沈降速度及ビ血液像ヲ檢査シ之等兩者ノ關係ニ就キ報告シタリ.

今回ハ更ニ病機進行シ蟲樣突起ノ壞疽又ハ穿孔ニ依リ限局性ノ腹膜炎又ハ膿瘍ヲ形成セル患者ニ就キ檢査ヲナシ得タル結果ヲ茲ニ報告セントス.

手術前ニ於ケル沈降速度及ビ血液像ノ檢査ニ就キテハ今日迄幾多ノ學者臨床家ノ發表アリ. Vogt 杉山氏等ハ「急性蟲樣突起炎ニ於テ沈降速度ハ正常又ハ輕度ノ促進狀態ニアルモ血液像ニ於テハ著明ノ白血球核左方移動アリ. 且ツ汎發性腹膜炎ニ於テモ輕度ノ沈降速度促進ハ全ク病的狀態ト一致セズ, 然ルニ血液像ハ著明ノ變化ヲ示ス. 然シ慢性疾患ニ於テハ白血球核移動輕度ノ時ニ於テモ高度ニ沈降速度促進スル事實ヨリシテ急性化膿性炎症ノ際ハ血液像ハ沈降速度ヨリ價値ヲ有シ. 慢性疾患ノ際ハ沈降速度ハ血液像ヨリ精確ナル指針タルコトヲ報告セリ. 又 Schurmaun ハ蟲樣突起炎ノ各期ニ於テ, 沈降速度ハ他ノ症狀ト嚴格ニ竝行セズ且ツ病日トモ關係ナシト云ヒ. 茂木教授等ハ沈降速度ハ病日ト病變ニ關係スト述ベタリ.

余ハ曩ニ合併症ヲ有セザル急性蟲樣突起炎ニ於ケル沈降速度及ビ血液像ヲ檢査シ Vogt 杉山, 茂木氏等ト同樣ノ結果ヲ得タルガ今回ハ急性限局性腹膜炎及ビ稍慢性トナリタル膿瘍ヲ形成セル蟲樣突起炎患者ニ就キ實驗シ上記ノ說ヲ追試スルト共ニ手術後ノ全經過ニ亘リ連續的ニ檢査シ沈降速度ト血液像トノ關係ヲ鮮明ナラシメント企圖セリ.

第1章 實驗材料及ビ實驗方法

金澤醫科大學熊埜御堂外科ニ於テ手術ヲ施行シタル限局性腹膜炎及ビ膿瘍形成ヲ伴ヘル蟲樣突起炎患者各々5名ニ就キ手術前後ニ於ケル赤血球沈降速度, 白血球數, 赤血球數, ザリー血色素量, 白血球各種百分率及ビ中性嗜好白血球核分葉數ヲ檢索セリ.

而シテ檢査ニ使用セシ器具及ビ方法ニ關シテハ余ノ第1回報告ニ詳述セシヲ以テ茲ニハ單ニソノ概略ヲ記スベシ.

1) 採血方法及ビ順序

患者ノ耳朶ヲ消毒シ小切開ヲ加ヘ湧出スル血液ヲ以テ第1血液塗抹標本ヲ作製シ, 次ニ KMK 式微量赤血球沈降速度測定管內ニ吸引シ第3ヲ血球計算ニ使用シ最後ニザーリー血色素量ヲ測定セリ.

2) 計算及ビ檢査法

白血球及ビ赤血球數ノ算定ニハ Levy-Hansser 氏血球計算器ヲ Sahli 血色素量ハ Heilige Farbplatten-Haemometer ヲ用ヒ方法ハ第1回報告ニ於ケルト同樣ナリ.

赤血球沈降速度ハ我教室ニテ考按セラレタル KMK 式微量赤血球沈降速度測定器ヲ使用, 又血液像ハ充分淸拭セル載物硝子ニ血液ヲ塗抹シ「メイギームザ二重染色ヲ施シ, 油浸裝置ニテ檢鏡セリ. 核分葉數ノ算定ハ杉山教授ノ所謂標準法ニ依ル. 正常人ノ平均核數ハ 1.96 ナリ.

第2章 實 驗 成 績

第1節 急性限局性腹膜炎ヲ伴ヘル蟲樣突起炎

限局性腹膜炎ヲ伴ヘル急性蟲樣突起炎患者5名ニ就キ手術前後ニ於ケル赤血球沈降速度及ビ

血液細胞ノ變化ヲ檢索セリ．其ノ實驗成績ヲ揭レバ次ノ如シ．

第　1　例

患者　笠○千○子，女，20歳．

1937年11月9日入院—12月1日全治退院．

現病歴　11月9日朝食後突然上腹部ニ劇シキ疼痛アリ．嘔吐ヲ伴フ．內科醫ノ診斷ヲ受ケ夕刻當科ニ送ラル．

現症　面貌苦悶狀．脈搏100，正調ニシテ緊張良．胸部異狀ナシ．右側腹部腹筋防禦强度ニシテ壓痛甚ダシク，廻盲部ニハ特別ノ抵抗アリ．左側ハ異狀ナシ體溫37°5Cナリ．

手術及ビ手術所見

入院卽日施行．山本學士執刀．局所麻醉．右直腹筋外切開．蟲樣突起ハ盲腸後下部ニ癒着ス．剝離スルニ蟲樣突起ハ甚ダシク肥厚腫大シ上半部ハ壞疽ニ陷ル．突起ノ周圍ニハ纖維素性物質及ビ薄キ膿汁貯蓄ス．膿汁吸引，突起切除シ「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル．

經過　術後6日目迄體溫ノ上昇(38.2°—37.8°C)ヲ見タルモ大體順調ニ經過シ20日目手術創ノ治癒ヲ見22日目全治退院セリ．

血液所見　第1表及ビ第1圖．

沈降速度　術前1時間値13.5mmニテ輕度ノ保進ヲ示シ，術後ハ次第ニ促進シ5日目21.5mmトナリ，全經過中ノ最高値ヲ示ス．以後ハ極メテ徐々ナレドモ遲延ノ傾向ヲ辿リ，21日目17.2mm, st中等度ノ促進ノ狀態ニテ全治退院セリ．

白血球數　術前12400，術後15160ニ增加シ，永ク輕度ノ增多症ヲ續ケ11日目7880トナリ正常値ニ歸リ以後著變ナシ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第1圖ノ如ク特別ノ關係見出シ難シ．

赤血球數　術前424萬，5日目ヨリ8日迄輕度ノ減少ヲ見11日目術前値ニ歸リ後ハ輕度ノ增加ヲ示セリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第1圖ノ如トク赤血球ノ減少ト沈降速度ノ促進トハ一定ノ關係アルヲ認メ得．

血色素量　術前78%術後極ク輕度ノ減少ヲ示セリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ本例ニ於テハ特別ノ關係ヲ見出シ得ズ．

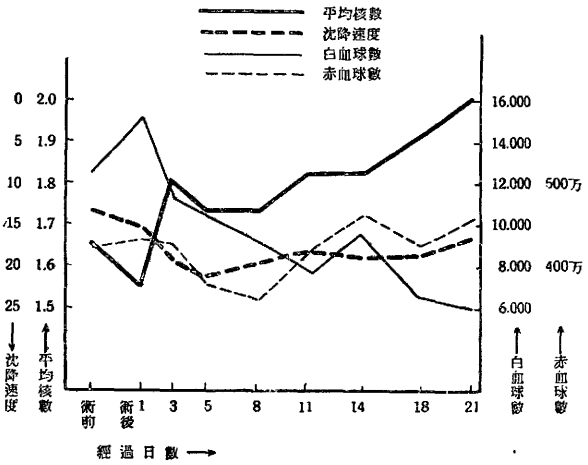
白血球各種百分率　術前中性嗜好球ノ增加81.5%，淋巴球ノ減少13%ヲ認メ術後モ此ノ傾向ヲ見タルモ5日目正常率ニ歸リ14日目以後ハ相對性淋巴球增多症ヲ認ム．「エ」嗜好球ハ術前消失．術後モ減少ヲ認メタル

第1表　沈降速度及ビ血液像　第1患者　笠○千○子　女　20歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ール色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中性嗜好	淋巴球	大核單球	エ好嗜球	肥細胞	骨髓型	プマラ細ズ胞	核 觀察數	核型 1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	12.400	424万	78%	13.5	20.0	200	81.5	13.0	5.5	0	0	0	0	100	51	42	5	2	0	1.67	
術後1日目	15.160	431万	76%	15.5	18.5	〃	81.0	13.0	4.5	1.0	0.5	0	0	〃	51	44	5	0	0	1.54	
3	11.360	424万	75%	19.0	21.5	〃	77.5	14.5	7.5	0.5	0	0	0	〃	39	42	19	0	0	1.80	月　經
5	10.560	376万	78%	21.5	24.0	〃	64.5	29.5	4.0	2.0	0	0	0	〃	42	45	11	2	0	1.73	〃 4日目ドレーン」ヲ除去
8	9.240	360万	75%	20.0	22.8	〃	62.5	32.0	3.5	2.0	0	0	0	〃	41	45	14	0	0	1.73	ス
11	7.880	424万	76%	19.0	20.5	〃	66.0	30.0	2.5	1.0	0	0	0	〃	38	44	16	2	0	1.82	〃
14	9.560	463万	76%	19.5	21.5	〃	56.0	40.0	2.0	2.0	0	0	0	〃	38	42	20	0	0	1.82	創部ニ硬結ヲ觸レ壓痛アリ濕布
18	6.520	435万	74%	19.0	21.5	〃	45.5	42.5	6.5	4.5	1.0	0	0	〃	33	44	21	2	0	1.92	20日目創合治ス
21	6.040	454万	78%	17.2	19.5	〃	54.0	37.0	5.0	3.5	0.5	0	0	〃	25	51	22	2	0	2.01	

第1圖 血液像及ビ沈降速度

第1患者 笠○千○, 女.



モ退院前ハ輕度ノ增多症ヲ見タリ.

大單核球ニハ著變ナク肥胖細胞ハ術後1日目出現シタルモ以後永ク消失シ18日ニ至リ再度出現シタリ.

平均核數 術前1.67, 術後1日目1.54トナリ, 强度ノ左方移動ヲ認ム, 以後ハ順調ニ恢復シ18日目ニ正常値ニ近キ21目ニハ2.01トナレリ. 沈降速度トノ關係ヲ見ルニ5日目迄平均核數ハ增加ノ一途ヲ辿ルニ平均核數ハ減少或ハ增加シ一定ノ關係ヲ見出シ難キモ以後ハ良ク並行シ平均核數ノ增加トトモニ沈降速度ノ遲延ヲ見ル. 然シ平均核數ノ恢復ハ沈除速度ノソレニ比シ著シク速ナルヲ認メ得.

第 2 例

患者 和○光○, 男, 22歳.

1937年7月8日入院—7月29日全治退院.

主訴 腹部疼痛.

現病歴 7月7日午後突然劇甚ナル腹部疼痛アリ. 比麻子油ヲ服用セルニ輕快セズ. 代ツテ嘔吐ヲ伴ヒ疼痛尙劇シクナレリト. 體溫 37.8°C

現症 面貌苦悶狀, 脈搏80至正調緊張良. 胸部異常ナシ. 腹部ハ全般ニ緊張シ壓痛アルモ廻盲部特ニ甚ダシ. 「ロブジンク反應陽性, 右側腹筋防禦著明.

診斷 急性蟲樣突起炎.

手術及ビ手術所見 7月8日入院卽日施行.

熊埜御堂教授執刀. 局所麻醉. 右直腹筋外切開. 蟲樣突起ハ約上半部ハ著シク膨隆シ拇指頭大ニシテ黃綠色ヲ呈シ一部壞疽ニ陷ル. 癒着ヲ認メザルモ周圍ニ薄キ膿樣腹水ノ貯蓄ヲ認ム. 膿汁吸引. 突起切除. 「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル.

經過 術後2—3日38.8—39°C ノ熱發ヲ見タルモ特別ノ症狀ヲ認メズ極ク順調ニ經過シ6日目「ドレーン」除去後モ膿汁ノ排出少ク21日目全治退院ス.

血液所見 第2表及ビ第2圖.

沈降速度 術前9.0mm 1時間値. 輕度ノ促進ヲ認メ術後ハ更ニ促進シテ3日目1時間値22.0mmトナリ全經過中最高値ヲ示シ以後ハ順調ニ遲延シ13日目6.5mm, st トナリ正常値ニ歸レリ.

白血球數 術前11.160術後3日目早ヤ7440トナリ正常値ニ歸リ其ノ後ハ正常數値內ヲ動搖セリ只ドレン除去ノ翌日輕度ノ增多症ヲ見タリ. 沈降速度トノ關係ハ認メ難シ.

赤血球數 術前460万, 術後1日目495万ニ增加セシモ3—5日目ハ減少ヲ示シ以後ハ術前値ヨリ增加セリ. 沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第2圖ニ示ス如ク負ノ相關々係ヲ見ル.

血色素量 術前87%術後5日目迄僅ニ減少ヲ示シタルモ以後ハ術前値ニ歸レリ, 沈降速度トハ赤血球數ト同樣ノ關係ヲ認メ得.

白血球各種百分率 術前及ビ術後1日目ハ中性嗜好球ノ增加, 淋巴球ノ減少ヲ認メ3日目早ヤ正常率ニ歸リ, 7日目以後ハ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ. 大單核球ニハ著變ナク「エ」嗜好球ハ術前術後1日目ハ減少消失ヲ認ムルモ3日目以後ハ增多症ヲ示シタリ. 肥胖細胞ハ術後3日目迄消失以後ハ著變ナシ.

平均核數 術前1.97, 術後1.78ニ減少シタルモ3日目ヨリ增加ノ傾向ヲ辿リ, 10日目早ヤ2.10トナリ正常數ニ複歸セリ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ全ク良ク並行シ核數ノ減少ニヨリ速度ノ促進ヲ見增加ト共ニ遲延ヲ見, 負ノ相關々係ヲ示ス. 然シ平均核數ハ沈降速度ヨリ3日早ク正常値ニ複歸セリ.

第 3 例

患者 田○穰, 男, 22歳.

1937年10月27日入院—11月18日全治退院.

主訴 腹部疼痛.

現病歴 10月26日午後ヨリ上腹部ニ輕度ノ索引痛, 食思不振及ビ下腹部ノ不快感アリ翌27日朝ヨリ右側腹部ノ緊張及ビ疼痛激甚トナリ後時間ノ經過ト共ニ增惡ス. 惡心アルモ嘔吐ヲ見ズ.

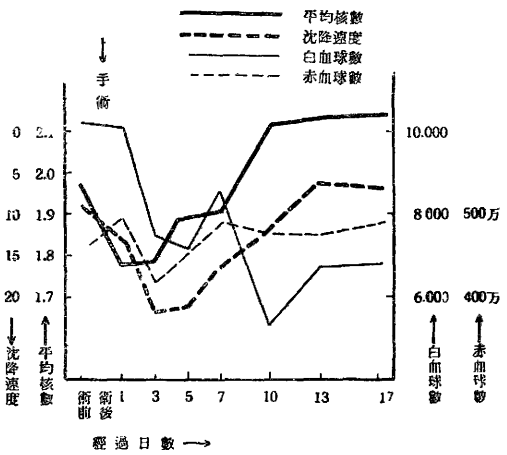
現症 顏貌苦悶狀, 脈搏102至, 正調ニシテ緊張良,

第2表　沈降速度及ビ血液像　第2患者　和○光○　男　22歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ザ血ーリ色素ール量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中性好嗜球	淋巴球	大核單球	好エ嗜球	肥細胞	好酸性顆粒型	プラズマ細胞	核型 觀察數	核型 1型	核型 2型	核型 3型	核型 4型	核型 5型	平均核數	備考
手術前	11.160	640万	87%	9.0	12.5	200	76.0	20.0	3.5	0.5	0	0	0	100	30	47	19	4	0	1.97	
術後1	10.720	495万	85%	13.5	16.0	〃	84.5	13.0	2.5	0	0	0	0	〃	33	56	11	0	0	1.78	
3	7.440	412万	78%	22.0	23.0	〃	70.5	22.5	1.5	5.5	0	0	0	〃	35	51	14	0	0	1.79	2日目自然瓦斯排出
5	7.080	455万	85%	21.0	22.0	〃	65.5	20.0	1.0	13.0	1.0	0	0	〃	33	49	16	2	0	1.87	6日目ドレーン除去
7	8.520	490万	91%	17.0	19.0	〃	48.5	40.5	3.5	6.5	1.0	0	0	〃	28	54	17	1	0	1.91	
10	5.280	480万	90%	12.5	15.5	〃	34.5	48.0	1.5	15.5	0.5	0	0	〃	23	49	23	5	0	2.10	
13	6.760	475万	90%	6.5	11.0	〃	39.5	51.5	0.5	6.5	2.0	0	0	〃	19	56	21	4	0	2.13	8日目一部抜糸10日目全抜糸
17	6.820	485万	91%	7.5	13.0	〃	29.0	56.0	3.0	11.0	1.0	0	0	〃	22	49	22	7	0	2.14	21日目全治退院

第2圖　血液像及ビ沈降速度

第2患者　和○光○，男.



舌ハ厚キ白苔ヲ被ル．胸部異狀ナシ．腹部一般ニ緊張シ特別ノ膨隆ヲ認メズ右側腹部ニハ激甚ナル壓痛アリ．腹筋防禦著明.

診斷　急性蟲樣突起炎.

手術及ビ手術所見　入院日卽日施行．熊埜御堂教授執刀．局所麻醉．右直腹筋外切開，腹腔內特ニ盲腸後部ニ稍混セル早期滲出液瀦溜シ盲腸ノ移動性著明．蟲樣突起ハ全體腫大肥厚シ褐赤色ヲ呈シ一部壞疽ニ陷リ尖端ハ後腹膜ニ癒着ス．蟲樣突起切除，盲腸皺壁形成術施行，膿汁ヲ吸引シ「チガレツテンドレーン」ヲ挿入ス.

經過　術後1－2日輕度ノ熱發ヲ見タルモ極ク順調ニ經過シ8日目ドレーン除去10日目全抜絲，22日目全治退院セリ.

血液所見　第3表及ビ第3圖.

沈降速度　術前1時間値14.5mm中等度ノ促進ヲ示シ術後3日目24.0mmニ達シ全經過ノ最高ヲ示ス．5日目以後僅カナレドモ遲延ノ傾向ヲ辿リ19日目17.0mm, stヲ示シ尙中等度促進ノ狀態ナリ.

白血球數　術前21360，術後徐々ニ減少シ5日目8680トナリ正常數ニ近ズケリ，14日目全抜絲後10720ニ達シ輕度ノ增多症ヲ呈セルモ以後著變ナシ．沈降速度トノ關係ハ認メ難シ.

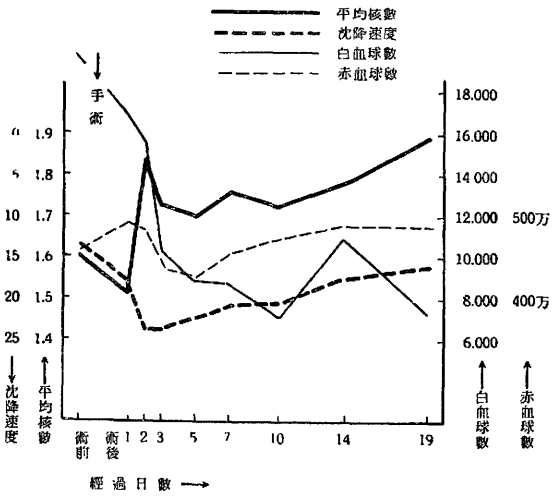
赤血球數　術前452万，術後1－2日目ハ稍增加シタルモ3－5日目ハ減少7日目術前値ニ達シ以後稍增加ノ傾向ヲ辿レリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第3圖ノ如トク頁ノ相關々係ヲ認メ得.

第3表 沈降速度及ビ血液像 第3患者 田○穫 男 22歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ノ色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中嗜性好	淋巴球	大核單球	「エ」嗜好球	肥胖細胞	骨髓型	プマラ細胞	核型 觀察數	1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	21.360	452	87%	14.5	17.0	200	84.5	9.5	6.0	0	0	0	0	100	47	45	8	0	0	1.61	
術後 1	17.160	490	90%	18.5	21.5	〃	88.5	7.5	4.0	0	0	0	0	〃	55	39	6	0	0	1.51	38°C
2	15.480	480	82%	24.0	25.5	〃	81.0	11.5	7.0	0	0.5	0	0	〃	40	38	20	2	0	1.84	
3	10.280	441	75%	24.0	25.5	〃	79.0	11.5	9.5	0	0	0	0	〃	39	50	11	0	0	1.72	
5	8.680	426	71%	22.8	24.0	〃	67.0	21.5	11.0	0.5	0	0	0	〃	45	41	13	1	0	1.70	
7	8.560	454	80%	21.5	23.0	〃	52.0	36.5	8.5	2.5	0.5	0	0	〃	44	39	15	2	0	1.75	
10	6.880	473	83%	21.0	23.0	〃	58.0	29.5	9.0	2.0	1.5	0	0	〃	41	47	11	1	0	1.72	8日半抜絲，ドレーン除去
14	10.720	488	82%	18.0	19.0	〃	72.5	21.5	5.0	0.5	0.5	0	0	〃	40	44	14	2	0	1.78	全抜絲分泌物多カラズ
19	7.160	481	85%	17.0	19.5	〃	52.5	32.5	7.0	7.0	1.0	0	0	〃	36	40	24	0	0	1.88	22日目全治退院

第3圖 血液像及ビ沈降速度

第3患者 田○穫，男.



血色素量 術前87%，術後ハ次第ニ減少シ5日目71%トナリ以後漸増シ19日目89%ニ達ス.

沈降速度トハ赤血球數ト同樣貧ノ相關々係ヲ認メ得.

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加，淋巴球ノ減少ヲ認メ術後3日目迄此ノ傾向アリシガ5日目正常率ニ歸シ以後變化ナシ.

大單核球ニハ著シキ増減ナク「エ」嗜好球ハ術前及ビ術後3日目迄消失シ5日目ヨリ出現著變ナカリシガ19日目7.0%ニ達シ稍増多症ヲ呈セリ. 肥胖細胞ハ出現消失一定セズ. 沈降速度トノ關係ハ認メ難シ.

平均核數 術前1.61ニテ强度ノ左方移動ヲ示シ術後1日目1.51ニ減少セルモ2日目急ニ1.84ニ急増シ3—5日目再度輕度ノ減少ヲ認メ以後順調ニ恢復セルモ19日目尙1.88ニテ輕度ノ左方移動ノ狀態ニアリ. 沈降速度トノ關係ヲ見ルニ3日目平均核數急増加シタル際沈降速度ハ最高値ヲ示シ正ノ關係ヲ示シタルモ之ハ異常ニシテ以後ハ貧ノ關係ヲ示シツヽ良ク並行セリ.

第 4 例

患者 酒○正○，男，31歳.

1937年9月16日入院—10月11日退院.

主訴 廻盲部疼痛.

現病歴 1937年9月6日晩，食後突然全腹部ニ疼痛ヲ覺エ，比麻子油ヲ服用セシニ以後疼痛増悪シ嘔吐3回アリ. 9日急性蟲樣突起炎ノ診斷ヲ受ケ廻盲部ニ氷嚢ヲ貼布セシタルモ症狀輕快セズ.

現症　面貌稍疲癆樣ヲ呈シ脈搏80, 正調緊張稍弱シ. 舌ハ厚キ白苔ヲ被ル, 胸部異常ナシ. 腹部右側ノ腹筋緊張强ク廻盲部ニハ手拳大ノ腫瘍ヲ觸レ壓痛甚ダシ.

診斷　急性限局性腹膜炎並ニ膿瘍.

手術及ビ手術所見　9月16日入院卽日施行.

熊埜御堂教授執刀. 局所麻醉. 右直腹筋外切開. 前腹膜輕度ニ肥厚シ廻盲部ニハ大網膜ニテ厚ク包裡サレタル腫瘍アリ. 大網膜ノ一部ヲ切開シ右外側ヨリ網膜ノ癒着ヲ剝離シツヽ後腹膜ニ達シタルニ糞臭アル黃色膿厚ナル膿汁多量ニ溢出シ來レリ. 直チニ吸引ス. 盡樣突起ハ指頭ニテ檢スルニ後腹膜ニ癒着シ尖端上方ニ向フヲ知ル. 二次的ニ切除スルコトニシ右側後腹部ニ對孔ヲ作リ充分排膿ノ後「ゴムドレーン」及ビ「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル.

經過　術後3日目ヨリ平熱トナレルモ膿ノ排出多キヲ以テ洗滌濕布ヲナス. 17日目ヨリ排膿減少一般症狀可良トナル. 25日目深サ8cmニ達スル瘻孔ヲ殘シ退院ス. 當時膿ノ排出ハ少量ナリ.

血液所見及ビ沈降速度　第4表及ビ第4圖.

沈降速度　術前1時間値23.5mmヲ示シ强度促進ノ狀態ヲ呈セリ. 術後ハ極メテ徐々ニ遲延ノ傾向ヲ辿リ23日目15mm, stナレリ.

白血球數　術前20960ヲ算シ術後1日目11480ニ激減シ3日目早ヤ正常數ニ近キ以後著變ナシ. 沈降速度トノ關係認メ難シ.

赤血球數　術前450万, 術後減少シ3日目413万トナリ以後增加シ13日目術前値ヲ超ヘ以後著變ナシ. 沈降速度トハ負ノ相關々係ヲ認メ得.

血色素量　術前95%, 術後漸次減少シ8日目80%トナリ以後ハ僅ニ增加セリ. 沈降速度トハ負ノ相關々係アルヲ認ム.

白血球各種百分率　術前中性嗜好球ノ增加淋巴球ノ減少ヲ認メ5日目迄此ノ傾向ヲ保チシガ8日目ヨリ正常率ニ歸リ18日目以後ハ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ.

大單核球ニハ著變ナク, 「エ」嗜好球ハ術前消失術後出現シ13日目以後ハ比較的增多症ヲ呈セリ. 肥胖細胞モ術後8日目以後僅ニ增加セルヲ認ム.

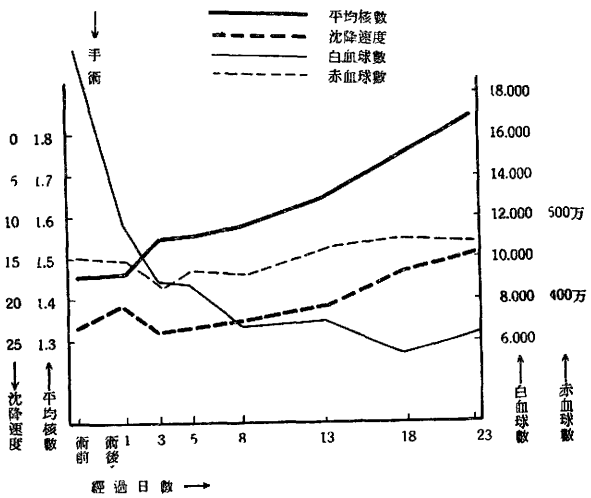
平均核數　術前1.45著シキ左方移動ヲ示シ術後8日目迄極ク徐々ニ增加, 13日目以後ハ一段ノ增加ヲ認メタルモ23日目尙1.83ヲ示セリ. 沈降速度トハ當初ヨリ良ク並行シ正常ニ向ヘリ.

第4表　沈降速度及ビ血液像　第4患者　酒○正○　男　31歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ヘモグロビン色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中性嗜好	淋巴球	大單核球	「エ」嗜好球	肥胖細胞	骨髓型	プラズマ細胞	核 觀察數	核型 1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	20.960	450	96%	23.5	24.5	200	81.0	15.5	3.5	0	0	0	0	100	62	32	5	1	0	1.45	
術後 1	11.480	446	88%	21.0	22.5	〃	85.0	9.0	5.0	1.0	0	0	0	〃	66	25	6	3	0	1.46	
3	8.960	413	84%	24.0	25.0	〃	75.0	18.0	6.0	0.5	0.5	0	0	〃	53	40	7	0	0	1.54	
5	8.760	437	82%	23.5	24.2	〃	77.0	17.5	4.0	1.0	0.5	0	0	〃	49	47	4	0	0	1.55	膿汁排出多量
8	6.520	432	80%	23.0	24.2	〃	51.5	37.0	6.0	3.5	2.0	0	0	〃	52	40	7	1	0	1.57	6日目ヨリ食鹽水洗滌ヲ
13	6.760	462	80%	21.0	24.0	〃	55.0	31.0	6.0	5.0	3.0	0	0	〃	48	41	10	1	0	1.64	バノール濕布
18	5.480	470	82%	17.0	18.2	〃	48.0	35.0	5.0	9.5	2.5	0	0	〃	39	48	12	1	0	1.75	17日目洗滌中止濕布續行
23	6.320	462	84%	15.0	18.0	〃	41.5	43.0	4.5	8.5	2.5	0	0	〃	33	54	10	3	0	1.83	25日目瘻孔ヲ殘シ退院

第4圖 血液像及ビ沈降速度

第4患者 酒○正○，男.



第2節 前節總括及ビ考按

前節ニ述ベタル4名ノ患者ニ於ケル術前術後ノ赤血球沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ノ總平均ヲ示セバ第5表及ビ第5圖ノ如シ．今血液所見ヲ總括スレバ次ノ如シ．

第1項 赤血球沈降速度

手術前最小ハ第2例ノ 9mm, st 最大ハ第4例ノ 23.5mm, st ニシテ平均 15.1mm, st ナリ．之ヲ曩ニ報告セル合併症ヲ有セザル蟲樣突起炎患者ノ平均 7.2mm, st ニ比スルニ著シク促進ノ狀態ニアルヲ示ス．然シ內第1，2，3例ハ各々 13.5mm(女) 9mm, st., 14.5mm, st ニシテ臨床的狀症及ビ局所ノ病變著明ナルニ比シ極ク輕度ノ促進ヲ示シタルモノニシテ全ク病狀ト一致セズ．只第4例ノミ强度ニ促進シテ全ク病狀ト一致セルヲ見ル．之ハ實ニ發病ヨリ檢査迄ニ經過シタル時間ノ長短ニ關スルモノニシテ，前節記載ノ如ク第1ヨリ3例迄ハ殆ンド24時間前後ニ之ヲナシ只4例ノミハ發病後10日ヲ經テ檢査シ得タリ．此ノ成績ヨリスルモ joseph-Marcus, Woytek 等ノ强調セル如ク，急性蟲樣突起炎ニ於ケル沈降速度ハ，促進シ始ムル迄ニハ少クモ發病後24時間ヲ要ス可ク，症狀ト一致シタル促進ヲ示スニハ尙ソレ以上ノ時間ノ經過ヲ要ス認メラル．手術後ハ全例ニ於テ更ニ促進シ3日目最高値ヲ示シ第1例ノミ5日目最高値ヲ示シタリ．兩日ノ平均ハ共ニ 22.2mm, st ニシテ，合併症ナキモノノ最高値平均 17.9mm, st ニ比シ尙一段ト速度ノ促進セルヲ見ル．

7日目以後沈降速度ハ漸次遲延シ始メ，第2例ノミ13日目正常値ニ復歸シタルモ他ノ例ニ於テハ全治退院前21日目以後ニ於テモ尙 14—17mm, st ヲ示シ中等度ニ促進ノ狀態ナリキ．之ヲ既報セシ合併症ナキ蟲樣突起炎ノ16日—18日ニ比スレバ沈降速度ノ恢復著シク遷延スルヲ認ム．

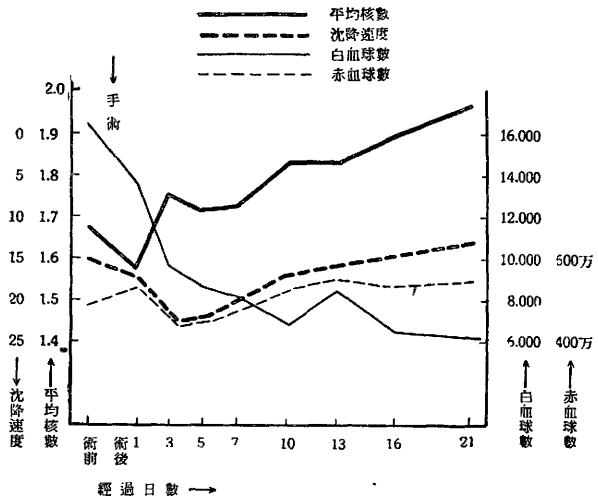
第2項 白 血 球 數

白血球數ハ手術前全例ニ於テ著シキ增多症ヲ呈シ最小 11.160 ヨリ最大 21.360 ニ達シ平均 16.470ナリ．術後ハ第1例ノミ增加シ他ハ何レモ減少シ3日目第2及ビ4例ノミハ正常數ニ復歸セルモ第1例ノミハ7日目ニ於テ尙9240ヲ算シ輕度ノ增多症ヲ示シ10日目漸ク正常數ニ歸セリ．之ヲ合併症ナキ蟲樣突起炎ニ比較スルニ術前ニ於テ前者ハ 11.660，本例ニ於テハ 16.470ヲ算シ4810ノ增加ヲ示シ術後ノ經過ニ於テモ前者ハ3日目全例正常數ニ復歸セルモ本例ニ於テハ特別ノ餘病併發セザルニ3—10日間ヲ要シ正常數ニ復スル日數稍遷延セリ．

第 5 表　沈降速度及ビ血液像　第1例—第4例ノ平均表

經過日數	白血球數	赤血球數	ザ血ヘリ色素ヘ量	沈降速度 1時間目	沈降速度 2時間目	白血球各種百分率 中性好嗜球	淋巴球	大核單球	「エ」好嗜球	肥細胞	骨髄型	プラズマ細胞	平均核數
手術前	16.470	446.5万	87.0%	15.1	18.5	82.1	14.4	4.6	0.1	0	0	0	1.675
術後 1	13.630	465.5万	84.7%	17.1	19.6	84.7	10.6	4.0	0.5	0.1	0	0	1.572
3	9.510	422.5万	78.0%	22.6	23.7	76.0	16.6	5.5	1.6	0.2	0	0	1.742
5	8.770	423.5万	79.0%	22.2	23.6	70.5	22.1	4.6	4.0	0.4	0	0	1.720
7—	8.210	434.0万	81.5%	20.4	22.2	57.4	32.7	6.0	3.1	0.8	0	0	1.730
10—	6·860	459.7万	82.2%	18.2	20.7	50.8	38.1	4.0	6.3	0.3	0	0	1.825
13—	8.450	472.0万	82.0%	16.2	18.7	52.1	38.0	4.4	3.9	1.6	0	0	1.825
16—	6.495	467.7万	83.0%	15.1	18.0	48.7	38.7	4.9	6.4	1.2	0	0	1.897
21—	6.180	470.5万	82.0%	14.2	17.1	49.3	37.5	5.5	6.3	1.3	0	0	1.965

第5圖　第 5 表圖示



白血球數ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ白血球數ハ術前既ニ著シキ増多症ヲ呈シ術後急激ニ正常數ニ復シ以後ハ生理的正常數値内ヲ動揺スルニ反シ沈降速度ハ第4例ノ外ハ輕度ノ促進ヲ呈シ術後ハ3—5日目迄促進ヲ續ケ以後極メテ徐々ニ恢復スルヲ以テ，術前術後ノ全經過ヲ通ジテ觀察スルニ兩者ノ間ハ特別ノ關係ヲ認メ難シ.

第3項　赤血球數及ビ血色素量

赤血球數ハ手術前最高460萬，最低424萬，平均446.2萬ニシテ術後1日目多少増加シ3日目ハ術前値ヨリ僅ニ減少シ7日目迄減少ヲ續ケ以後ハ幾分増加ノ傾向ヲ辿リ21日目ハ平均470.5萬ニ達セリ．術後1日目ニ於ケル赤血球數ノ増加ハ手術的侵襲ニ依リ體液ノ消失夥シク爲ニ血液ノ濃縮ヲ招來シ單位體積内ノ赤血球數ノ増加ヲ來セシモノニシテ僞ノ増加ト見ラル.

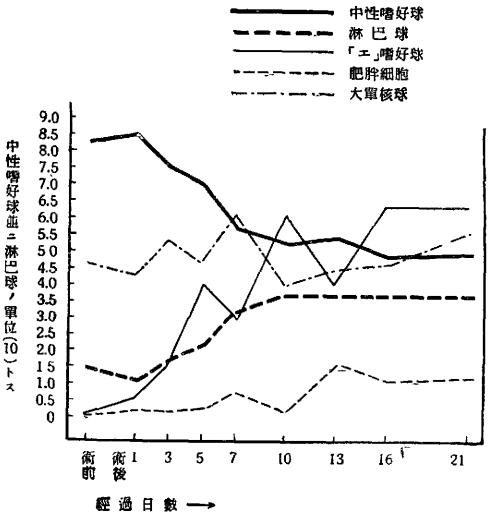
血色素量ハ術前78—96%，平均87%ヲ示シ術後ノ經過ハ大體赤血球數ト並行シ3日目平均78%ニ減ジ以後ハ僅少ノ増加ヲ續ケ16日目83%ニ達セリ.

今上記兩者ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ各例ノ圖示及ビ第5圖ノ總平均表ノ圖示ノ如ク赤血

球曲線ト沈降速度曲線ハ負ノ關係ヲ保チツヽ大體竝行セルヲ見，兩者ノ間ニハ一定ノ負ノ相關々係アルヲ認メラル．血色素量ニ於テモ第5表ニ依リ大體赤血球數ト同樣ノ關係アルヲ知リ得．

第4項 白血球各種百分率
(第6圖參照)

第6圖 第5表ノ圖示
(各種白血球百分率)



手術前最モ著シキ變化ハ中性嗜好白血球ノ增加，淋巴球ノ減少，「ヱオジン嗜好球ノ減少或ハ消失ナリ．中性嗜好球ハ76—84%，平均82.1%ニシテ淋巴球ハ9—20%，平均14.4%，「ヱ」嗜好球ハ3例消失1例ノミ0.5%ヲ算シタリ．手術後ニ於テモ此ノ傾向ヲ續ケ，5日目ニ至リ正常率ニ復歸シ，以後ハ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ．

「ヱ」嗜好球ハ術後1日目遲キモ3日目出現シ以後ニ正常値ヨリ增加セリ．特ニ第2例ノ如キハ3日目早クモ5.5%ニ增加シ以後モ輕度ノ增多症ヲ續ケ10日目ニハ15.5%ニ達セリ．

大單核球ハ3—7日目輕度ノ增加ヲ見タルモ著シキ變化ナク．肥胖細胞ハ術前消失，術後ニ於テハ出現消失一定セザルモ第4例ニ於テハ術後ノ經過ト共ニ輕度ノ增加ヲ見タリ．

沈降速度ト各分率トノ關係ヲ見ルニ中性嗜好球，淋巴球ニ於テハ白血球數ト同樣急激ニ變化シ急激ニ正常ニ復歸シ以後ハ正常率ニ近キ價ヲ以テ經過スルニ反シ沈降速度ハ極メテ徐々ニ恢復シ此ノ間ニ一定ノ關係ヲ見出シ難シ．其ノ他大單核球「ヱ」嗜好球，肥胖細胞ニ於テモ第6圖ニ見ル如ク各ノ曲線ト沈降速度曲線ヲ比較スルニ其ノ間ニ一定ノ關係ヲ認メ難シ．

第5項 平均核數

手術前ハ全例ニ於テ平均核數ノ減少ヲ認メ1.97—1.45，平均1.675ニシテ合併症ナキ蟲樣突起炎ノ平均1.76ニ比シ核ノ左方移動一段ト著シキヲ認ム．

術後1日目ハ全例ヲ通ジ多少ノ減少アリ．3日目ヨリ徐々ニ恢復シ初メ第2例ニ於テハ早クモ10日目正常數ニ復歸シタリ．然シ他ノ例ニ於テハ恢復稍遲延シ3週ヲ過ギテ漸ク正常數ニ近ケリ．之ヲ既報セシ合併症ナキモノニ比較スルニ前者ガ早キハ10日目遲キモ14日目ニ正常數ニ復歸セルニ比シ，本例ハ3週ヲ過ギ漸ク正常數ニ近クヲ見レバ，平均核數ノ恢復ガ一段ト遷延セルヲ認メラル．

平均核數ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第2及ビ第4例ノ如キハ手術前ヨリ大體兩者ハ負ノ關係ヲ持チ竝行的ニ經過シ他例ニ於テモ，術後3日目沈降速度ガ完全ニ促進シ病狀ト一致セルニ至リシ以後ハ全ク負ノ關係ヲ保チツヽ竝行シテ經過スルヲ認ム．然シ平均核數ノ恢復スル速度ハ沈降速度ノ恢復ニ比シ稍急速ニシテ術後21日目平均核數ハ殆ンド正常數ニ近ケルニ比シ沈降速度ハ尙15.0mm, st.ヲ示シ中等度促進ノ狀態ニアルヲ見ル．

第3節 膿瘍ヲ形成セル蟲樣突起炎

膿瘍ヲ形成セル稍慢性ノ蟲樣突起炎患者5名ノ沈降速度及ビ血液細胞ノ變化卽チ赤血球數，白血球數，白血球各種百分率，平均核數並ニザーリー血色素量ノ變化ヲ檢索セリ，其ノ實驗成績ヲ揭レバ次ノ如シ．

第 5 例

患者　駒○ミ○，女，21歳.

1937年11月4日入院—11月26日全治退院.

主訴　廻盲部疼痛.

現病歴　本年3月腹痛アリ，約1週間醫治ヲ受ケ輕快ス．當時體溫ニ 38°C 上昇セリト．10月4日朝何等ノ動機ナク廻盲部ニ劇痛ヲ覺エ體溫 38°C ニ上昇ス嘔吐ナシ．氷嚢ヲ患部ニ用ヒ稍疼痛輕快セルモ全治セズ11月4日來院ス.

現症　腹部ハ特別ノ膨隆ナク柔軟，然シ廻盲部ニハ手掌大ノ腫瘍樣抵抗アリ．壓痛ヲ訴フ.

診斷　盲腸周圍炎.

手術及ビ手術所見　熊埜御堂教授執刀，局所麻醉，右直腹筋外切開．盲腸ハ大網膜及ビ側腹膜ト强ク癒着ス，網膜ノ一部ヲ切除シ他ノ癒着ヲ剝離シ蟲樣突起ヲ見ルニ突起ハ屈曲シテ廻腸盲腸ト堅ク癒着ス之ヲ剝離スルニ周圍ニ膿瘍ヲ認ム．膿汁ヲ清拭シ蟲樣突起切除，「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル.

經過　4日目迄輕度ノ體溫上昇ヲ見タルモ一般症狀可良，3日目自然放屁アリ．經過順調ニテ20日目全治退院セリ.

血液所見　第6表第7圖.

沈降速度　術前 13.0mm 1時間値ニシテ女子トシテ極ク輕度ノ促進ヲ示シ術後1日目僅ニ減少シタルモ3—5日目急ニ促進シテ 22—23mm, st ヲ示シ全經過ノ最高値ヲ示ス．以後ハ極メテ徐々ニ速度遲延ノ傾向ヲ辿リシモ退院前尙 17mm, st ニテ中等度ノ促進狀態ニアリキ.

白血球數　手術前 14320，術後 17200ニ增加シ3日目 11080 ニ激減シ5日目ヨリ正常數トナリ以後著變ナシ．沈降速度トハ一定ノ關係認メ難シ.

赤血球數　術前 445万，術後ハ11日目迄僅少ノ減少ヲ續ケ14日目ヨリ術前値ヲ超ヘ增加ノ傾向ヲ辿レリ.

血色素量　術前79%，術後1日目85%ニ急增セルモ3日目ハ72%ニ減ジ以後ハ僅ニ增加ヲ續ケ14日目76%ニ恢復セリ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ速度ノ促進最モ强度ナル際減少ヲ示シ後速度ノ遲延ト共ニ增加シ來ル所ヨリ一定ノ負ノ關係認メラル.

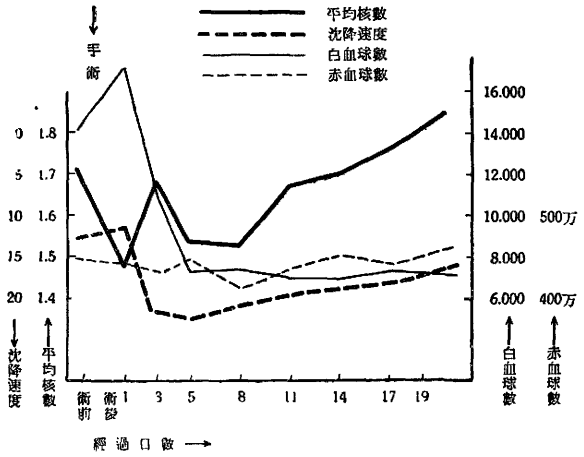
白血球各種百分率　術前中性嗜好 63.0%，淋巴球 28.0% 其ノ他ニ於テモ正常ノ率ヲ示シ術後1日目中性嗜好球ノ增加，淋巴球ノ減少ヲ來シタルモ3日目早ヤ正常率ニ復歸シ以後ハ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ.

第6表　沈降速度及ビ血液像　第5患者　駒○ミ○　女　21歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ーリ色素ー量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中嗜性好	淋巴球	大核單球	好エ嗜球	肥胞細	骨髓型	プラズマ細胞	核 觀察數	核型 1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	14.320	445万	79%	13.0	17.0	200	63.0	28.0	3.5	4.5	1.0	0	0	100	42	46	11	1	0	1.71	
術後 1	17.200	440万	85%	12.0	14.5	〃	79.5	16.0	3.0	0.5	1.0	0	0	〃	59	35	6	0	0	1.47	38°C 月經
3	11.080	331万	72%	22.0	24.0	〃	64.5	26.5	6.0	2.5	0.5	0	0	〃	46	41	13	0	0	1.67	37.8°C
5	7.200	443万	74%	23.0	24.5	〃	53.5	37.0	5.0	4.5	0	0	0	〃	54	39	7	0	0	1.53	
8	7.360	411万	78%	21.5	24.0	〃	55.5	36.5	3.0	4.0	1.0	0	0	〃	53	42	5	0	0	1.52	6日目ドレーン除去
11	6.920	435万	75%	20.0	22.8	〃	40.5	47.0	5.0	7.0	0.5	0	0	〃	44	45	11	0	0	1.67	10日目半拔糸12日目全拔糸
14	6.906	450万	76%	19.0	20.5	〃	41.0	40.0	9.0	9.5	0.5	0	0	〃	44	43	12	1	0	1.70	
17	7.100	440万	76%	18.5	20.0	〃	38.0	49.5	6.5	5.5	0.5	0	0	〃	41	42	17	0	0	1.76	
20	6.990	465万	76%	17.0	20.0	〃	35.0	52.0	4.0	8.0	1.0	0	0	〃	39	40	20	1	0	1.83	全治退院

第7圖 血液像及ビ沈降速度

第5患者 駒○ミ○，女.



大單核球 術前3.5%，術後3日目ヨリ增加ヲ見タルコトアルモ增減一定セズ.

「エ」嗜好球 術前3.5%，術後1日目0.5%ニ減少セルモ以後ハ增加ノ一途ヲ辿リ5日目術前値ニ歸リ14日目ニハ9.5%トナレリ.

肥胖細胞 術前術後ニ著變ナシ.

平均核數 術前1.71，術後1.47ニ減少セルモ3日目1.67ニ增加シ5日目再ビ1.53ニ減ジ以後ハ增加ノ一途ヲ辿リ20日目1.83トナレリ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ3日目速度促進シ最高値ヲ示シ以後恢復スル狀態ハ平均核數ト稍並行スルモ沈降速度ノ恢復ハ平均核數ニ比シ實ニ遲々タリ.

第 6 例

患者 白○谷○ミ，女，12歳.

1937年6月25日入院—7月23日全治退院.

主訴 腹部疼痛.

現病歷 6月13日突然惡感戰慄ト共ニ全腹部ニ劇甚ナル疼痛ヲ覺エ，體溫38°Cニ上昇セリ. 醫師ヨリ急性蟲樣突起炎ト診斷サレ，患部ニ氷囊ヲ貼用ス. 其ノ後モ38°Cニ達スル弛張熱アリ 廻盲部ノ壓痛去ラズ，6月25日當科ニ來ル.

現症 面貌正常，呼吸稍胸式，脈搏84，正調ニシテ緊張良. 舌ニハ厚キ白苔ヲ被ル，胸部異狀ナシ. 腹部ハ右側ノ腹筋防禦輕度，廻盲部ニ小兒頭大ノ腫瘍樣ノ抵抗アリ，壓痛甚ダシ. 尙排尿後疼痛ヲ訴フ.

診斷 盲腸周圍炎.

手術及ビ手術所見 一時保存的療法ヲ行ヒ患部ニ氷囊ヲ貼用ス. 腫瘍ノ縮少，消退ヲ待チ7月6日手術ヲ施行ス.

熊埜御堂教授執刀，局所麻醉，右直腹筋外切開，廻盲部ニ大網膜ニ包裹サレタル腫瘍アリ蟲樣突起ハ强ク後腹膜ニ癒着シ同部ニ穿孔ヲ認ム. 排膿，蟲樣突起切除，「チガレツテンドレーン挿入シ術ヲ終ル.

經過 3日目迄輕度ノ熱發ヲ見タルモ以後順調ニ經過シ18日目全治退院ス.

血液所見 第7表第8圖.

沈降速度 入院時1時間値24.5mmヲ示シ强度ニ促進ノ狀態ナリキ. 保存的療法ノ結果腫瘍縮少シ一般症狀モ可良トナリ，沈降速度モ18.0mm, stニ減少セリ. 手術後ハ再ビ促進シ3日目25mm, stニシテ全經過中ノ最高値ヲ示セリ. 以後病狀輕快ト共ニ順調ニ遲延ヲ見タルモ全治退院前17.0mm, stニテ相當促進ノ狀態ナリキ.

白血球數 入院時13200，手術ノ前日ハ4350ニ減少セルモ術後再ビ16280ニ增加セリ. 然シ3日目早ヤ8520ニ激減シ以後ハ生理的正常數値內ヲ動搖セリ. 沈降速度トハ一定ノ關係ヲ認メ難シ.

赤血球數 入院時408万，術前350万ニ減ジタルモ術後1日目再ビ437万ニ增加シ3日目再ビ357万ニ減ジ以後減少ヲ續ケタルモ13日目ヨリ增加シ始メ17日目ハ430万ニ達セリ. 沈降速度トハ稍眞ノ相關々係ガ認メラル.

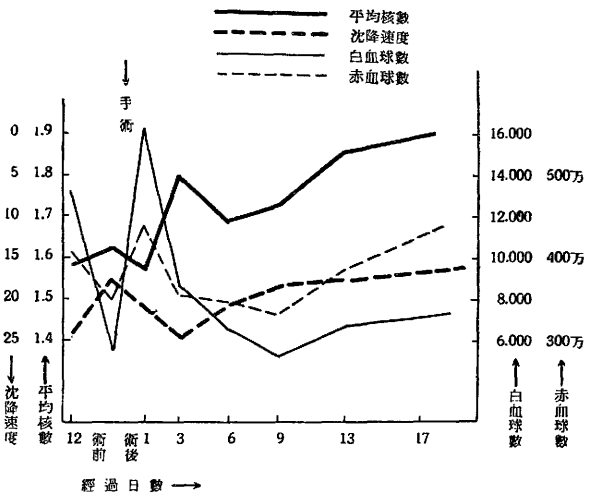
血色素量 入院時74%，手術後80%ニ增加セルガ3日目64%ニ減少シ以後漸次增加シ17日目71%ニ達セ

第7表　沈降速度及ビ血液像　第6患者　白○尾○　女

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ー色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中性好「エ」嗜	淋巴球	大核單球	「エ」嗜好球	肥胖細胞	骨髓型	プラズマ細胞	核型 觀察數	1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前12	13 200	408万	74%	24.5	25.8	200	79.0	14.5	6.5	0	0	0	0	100	55	34	9	2	0	1.58	氷嚢貼用(患部)
〃 1	5.350	350万	74%	18.0	20.8	〃	49.0	47.0	2.5	1.5	0	0	0	〃	50	40	8	2	0	1.62	平熱腫瘍縮少
術後 1	16.280	437万	80%	21.0	22.5	〃	91.5	7.0	3.0	0	0	0	0	〃	53	36	10	1	0	1.57	
3	8.520	357万	64%	25.0	26.0	〃	78.0	20.5	1.5	0	0	0	0	〃	42	39	17	2	0	1.79	輕度熱發一般症狀可良
6	6.240	352万	70%	21.0	23.5	〃	47.0	47.0	4.0	1.0	1.0	0	0	〃	46	39	15	0	0	1.69	ドレーン除去
9	5.260	328万	69%	19.0	21.5	〃	39.5	56.5	4.5	1.5	0	0	0	〃	45	39	15	1	0	1.72	8日目半抜糸10日目全抜糸
13	6.660	390万	69%	18.0	21.5	〃	47.0	44.5	5.5	2.5	0.5	0	0	〃	41	35	22	2	0	1.85	
17	7.200	430万	71%	17.0	21.0	〃	47.0	48.0	2.0	1.5	1.5	0	0	〃	35	44	18	3	0	1.89	18日目全治退院

第8圖　血液像及ビ沈降速度

第6患者　白○谷○，女.



リ.

白血球各種百分率　入院當日ハ中性嗜好球ノ增加淋巴球ノ減少,「エ」嗜好球ノ消失ヲ見タルモ手術前日ハ正常率ヲ示セリ. 術後1日目再ビ中性嗜好球ノ增加91.5%, 淋巴球ノ減少7.0%,「エ」嗜好球ノ消失ヲ見タルモ3日目ハ正常率ニ歸リ以後稍相對性淋巴球增多症ヲ示シタリ.

大單核球　入院時6.5%, 手術後一時減少シ3—1%ヲ示シタルモ6日目以後術前ニ近キ數ヲ認メタリ.

「エ」嗜好球ハ術後3日目迄消失シ6日目出現以後著變ナシ.

肥胖細胞ハ入院時及ビ術後ハ一時消失セルモ6日目出現, 其ノ後ハ著變ナシ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ中性嗜好球トハ正, 淋巴球トハ負ノ關係アル如キモ百分率ノ變化ハ白血球數ト同樣急激ニ變化シ正常數ニ復歸シ後ハ正常率內ヲ動搖スルヲ以テ全經過ヲ通ジテ見ル時特別ノ關係ヲ認メ難シ.

平均核數　入院時1.58, 手術前1.62ニ增加セルガ術後再ビ減少シ1.57トナリ3—6日目ニハ增減ノ動搖ヲ見タルモ以後ハ順調ニ增加シ退院前ハ1.89ニ達シタリ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ大體負ノ關係ヲ保チツヽ經過スルモ平均核數ノ增加ハ沈降速度ノ恢復ニ比シ著シク早キヲ認ム.

第　7　例

患者　濱○吉○, 男, 24歳.

1937年7月22日入院—8月19日全治退院.

主訴　廻盲部疼痛.

現病歴　本年3月上腹部ニ疼痛アリ嘔吐ヲ伴ヒ體溫ハ38°Cニ上昇セリ當時急性蟲樣突起炎ト診斷サレ患部ニ氷嚢ヲ貼用ス. 同年5月再度ノ發作アリ. 今度ハ7月15日上腹部ニ疼痛アリ次第ニ廻盲部ニ限局セリ. 前同樣患部ニ氷嚢ヲ貼布セシモ患部ノ疼痛去ラズ當科ニ來ル.

現症　顏貌正常, 脈搏78, 整調ニシテ緊張良, 咽喉稍發赤ス, 胸部異常ナシ. 腹部特別ノ膨隆陷凹ヲ認メズ. 廻盲部ニ壓痛抵抗アリ同部ニ凍症ニ依ル淺キ潰瘍存在ス.

診斷　盲腸周圍炎.

手術及ビ手術所見　腹壁ノ潰瘍ノ治癒ヲ待チ7月31日手術ヲ施行ス. 野中學士執刀, 局所麻醉, 右直腹筋外切開, 盲腸部ハ大網膜ニ堅ク包裹セラル. 大網膜ノ一部ヲ切離シ他ハ剝離シ蟲樣突起ヲ見ルニ, 突起ハ堅ク盲腸下面及ビ後腹膜ニ癒着シ, 同部ニ鶏卵大ノ膿瘍ヲ認ム. 癒着ヲ剝離シ, 突起ヲ切除シ排膿ノ後「チガレツテンドレーン挿入シ術ヲ終ル.

經過　術後6日目迄輕度ノ熱發ヲ見タルモ一般症狀可良, 順調ニ經過シ, 19日目全治退院ス.

血液所見　第8表第9圖.

沈降速度　術前1時間値5.4mmニテ正常ナリ, 術後促進シ3日目21mm, stヲ示シ全經過ノ最高値ヲ示シ, 以後ハ順調ニ恢復シ18日目9.0mm, stニテ正常値ニ近ケリ.

白血球數　術前8480, 術後24200ニ增加シ3日目9520ニ激減シ5日目6020トナリ以後ハ正常値ノ範圍內ヲ上下セリ. 沈降速度トハ特別ノ關係認メズ.

赤血球數　術前475万, 術後521万ニ增加セルガ3日目385万ニ減少, 以後徐々ニ增加シ退院前450万ニ復歸セリ. 沈降速度トハ眞ノ關係ヲ持チ並行セルヲ認ム.

血色素量　術前90%, 術後3日目80%ニ減ジ一時減少ヲ續ケタルモ11日目以後增加ノ傾向ヲ辿リ19日目85%ニナレリ. 沈降速度トハ赤血球數ト同樣眞ノ相關々係ヲ認ム.

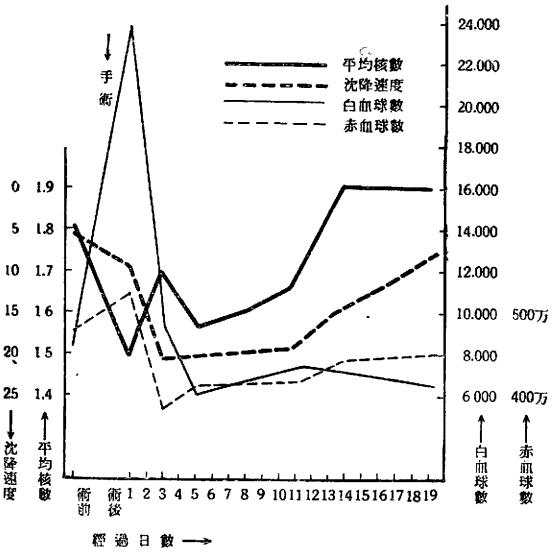
白血球各種百分率　手術前ハ「エ」嗜好球ノ消失ヲ見ル外大體正常率ヲ示シ幾分相對性淋巴球增多症ノ傾アリ. 術後1日目ハ中性嗜好球ノ增加淋巴球ノ減少, 「エ」嗜好球ノ消失ヲ認メタルモ3日目ハ早ヤ正常率ニ復歸シ以後ハ相對性淋巴球增多症ノ傾向アリ.

第8表　沈降速度及ビ血液像　第7患者　濱○吉○　男

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ー色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中性嗜好	淋巴球	大核單球	「エ」好嗜球	肥細胞	骨髓型	プマラズ細胞	核 觀察數	1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	8.480	475万	90%	5.4	10.3	200	54.0	40.5	5.5	0	0	0	0	100	37	46	16	1	0	1.81	輕度熱發37.8C° 2日目自然瓦斯排出
術後 1	2.420	521万	92%	9.0	12.2	〃	90.0	8.0	2.0	0	0	0	0	〃	57	37	6	0	0	1.49	〃
3	9.520	385万	80%	21.0	24.0	〃	75.0	22.5	2.5	0	0	0	0	〃	47	37	15	1	0	1.70	〃
5	6.020	413万	81%	20.0	22.0	〃	56.5	34.0	6.5	3.0	0	0	0	〃	56	32	12	0	0	1.56	〃
8	6.780	415万	80%	19.8	21.5	〃	54.5	40.5	3.5	1.5	0	0	0	〃	51	38	10	1	0	1.61	6日目ドレーン除去
11	7.460	418万	81%	19.5	22.0	〃	48.5	42.0	6.5	1.5	1.0	0	0	〃	46	41	13	0	0	1.67	10日目全抜糸
14	7.200	446万	83%	14.5	90.5	〃	57.0	35.0	6.0	2.0	0	0	0	〃	35	45	15	4	1	1.91	
19	6.780	450万	85%	9.0	17.0	〃	55.0	35.5	6.5	0	3.0	0	0	〃	37	40	19	4	0	1.90	全治退院

第9圖　血液像及ビ沈降速度

第7患者　濱○昌○，男.



大單核球ハ術後1－3日目ハ稍減少ヲ見タルモ5日目ヨリ6.5%トナリ以後著變ナシ.

「エ」嗜好球ハ術後3日目迄消失5日目出現，後著シキ增減ナシ.

肥胖細胞ハ術後8日目迄消失．其ノ後モ出現消失一定セズ．沈降速度ト百分率トノ間ニハ一定ノ關係ヲ求メ難シ.

平均核數　術前1.81，術後1日目1.49ニ減ジ3日目1.70ト增加シタルモ5日目再ビ1.56ニ減ジ以後ハ順調ニ增加シ14日目1.91トナリ正常値ニ近ケリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ術後5日目以後ハ負ノ關係ヲ保チ良ク並行セルモ，平均核數ノ恢復稍急激ナリ.

第　8　例

患者　角○久○郎，男，31歳.

1937年7月21日入院－8月21日全治退院.

主訴　廻盲部疼痛.

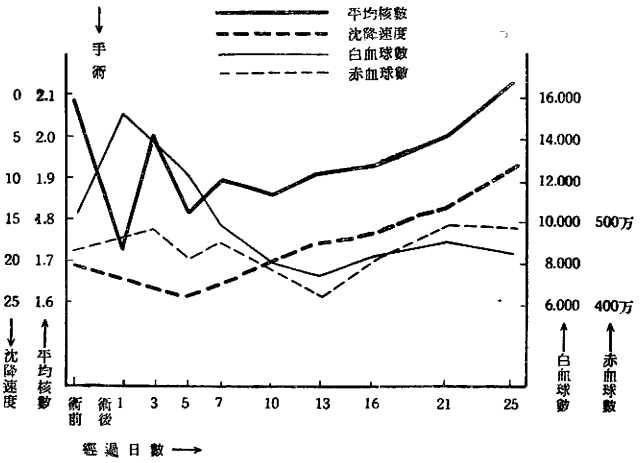
現病歴　7月10日頃廻盲部ニ不快感アリ其ノ際嘔吐4－5回アリ．患部ニ氷嚢ヲ用ヒシニ稍輕快セリ，當時ヨリ廻盲部腫瘍トシテ醫師ノ治療ヲ受ケタルモ全快セズ7月21日當科ニ來ル.

現症　面貌正常，呼吸稍胸式，脈搏68，整調ニシテ緊張良，舌ニハ厚キ白苔ヲ被ル．胸部異常ナシ．腹部ニハ特別ノ膨隆ヲ認メザルモ廻盲部ニハ限界銳キ鷄卵大ノ腫瘍ヲ觸レ輕度ノ壓痛アリ．腫瘍ハ硬度稍硬．波動ヲ見ズ．試驗的穿刺ニテモ膿汁ヲ證明セズ.

第9表　沈降速度及ビ血液像　第8患者　角○○　男

經過日數	白血球數	赤血球數	ザ血ー色リ素ー量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中嗜性好	淋巴球	大核單球	「エ」嗜好球	肥胖細胞	骨髓型	プラズマ細胞	核型 觀察數	1型	2型	3型	4型	5型	平均核數	備考
手術前	10.640	460万	87%	21.0	23.0	200	65.0	28.5	6.0	0.5	0	0	0	100	25	43	30	2	0	2.09	輕度熱發自然瓦斯排出アリ
術後 1	14.960	479万	88%	22.5	24.0	〃	77.5	16.5	5.5	0.5	0	0	0	〃	44	41	14	1	0	1.72	輕度熱發
3	13.560	483万	86%	23.5	24.5	〃	80.5	13.5	3.0	2.0	1.0	0	0	〃	36	34	24	6	0	2.0	
5	12.200	453万	87%	24.5	25.5	〃	74.0	16.0	2.5	6.5	1.0	0	0	〃	40	41	17	2	0	01.8	
7	9.780	470万	86%	23.0	24.5	〃	53.0	38.0	1.5	6.5	1.0	0	0	〃	37	40	20	3	0	11.8	6日目ドレーン除去
10	8 060	447万	81%	20.0	21.5	〃	57.0	28.5	6.0	7.5	2.0	0	0	〃	37	43	17	3	0	91.8	本日全抜糸
13	7.200	414万	76%	18.0	20.0	〃	41.5	46.5	3.0	8.5	0.5	0	0	〃	39	36	20	5	0	61.9	膿分泌少シ
16	8.320	456万	49%	16.6	18.0	〃	59.0	31.0	4.0	5.0	1.0	0	0	〃	30	42	13	5	0	11.9	〃
21	9.140	498万	89%	13.2	19.0	〃	54.5	33.0	1.5	10.0	1.0	0	0	〃	28	49	18	5	0	32.0	〃
25	8.440	494万	88%	8.5	16.0	〃	42.0	44.5	2.5	9.5	1.5	0	0	〃	24	45	25	6	0	2.13	創合治ス30日退院

第10圖 血液像及ビ沈降速度
第8患者 角○久○○，男.



診斷 盲腸周圍炎.

手術及ビ手術所見 7月22日施行，熊埜御堂教授執刀，局所麻醉，右直腹筋外切開. 盲腸部ハ大網膜ニ堅ク包裹サル，大網膜ノ一部ヲ切開，他ハ剝離シ蟲樣突起ヲ求ムルニ突起ハ盲腸ノ下邊ニ一部癒着シ尖端ヲ後方ニ向ケ後腹膜ニ癒着シ同部ニ鷄卵大ノ膿瘍ヲ形成ス. 蟲樣突起ヲ切除シ排膿ヲ完全ニシ「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル. 蟲樣突起ハ上半部腫脹肥厚シ尖端ニ近ク穿孔部ヲ認ム.

經過 手術後3日目迄輕度ノ熱發ヲ見タルモ一般狀態可良，6日目「ドレーン」除去後モ排膿少ク順調ニ經過シ25日目手術創完全ニ治癒シ30日目全治退院ス.

血液所見 第9表第10圖

沈降速度 初診時1時間値21mm强度促進ノ狀態ニアリ. 術後徐々ニ增加シ5日目24.5mm, stトナリ全經過中ノ最高値ヲ示シ以後一般症狀ニ竝行シ極メテ順調ニ恢復シ25日目8.5mm, stヲ示シ正常數値ニ近ケリ.

白血球數 術前10640，手術後14960ニ增加シ以後徐々ニ減少シ可成永ク增多症ヲ續ケ10日目8060ニ達シ正常數値內ニ入リ以後ハ退院日迄正常數値內ヲ上下セリ. 沈降速度トノ關係ヲ見ルニ本例ハ比較的永ク增多症ヲ續ケシ故一見正ノ相關々係アル如キモ尙白血球數ノ變化ハ沈降速度ニ比シ急激ニシテ全經過ヲ通ジテ見ル時兩者ノ間ニ一定ノ相關々係アルヲ認メ得ズ.

赤血球數 術前460万，術後3日目迄僅ニ增加シ5日目ヨリ僅ニ減少シ以後減少ヲ續ケ13日目414万トナリシモ，其ノ後ハ增加シ21日目以後ハ術前値ヲ超過シタリ. 沈降速度トノ關係ハ本例ニ於テハ各例ニ認メシ負ノ相關々係ハ著明ニ認メ難シ.

血色素量 術前87%，術後著シキ變化ナク經過シ10—16日間ニ僅ニ減少シタル76—80%ヲ示シ後ハ術前値以上トナレリ. 沈降速度トノ關係ハ本例ニ於テハ赤血球數ト同樣一定ノ相關々係ヲ認メ難シ.

白血球各種百分率 中性嗜好球及ビ淋巴球ハ術前正常ノ率ヲ見ルモ術後ハ5日目迄前者ノ增加，後者ノ減少ヲ認メ7日目以後ハ淋巴球ノ增加中性嗜好球ノ減少アリテ正常率又ハ相對性淋巴球增多症ヲ見タリ.

大單核球 術前6.0%，術後次第ニ減少ノ傾向アリ7日目1.5%ニ達セルモ10日目急ニ術前値ニ歸リ以後ハ增減一定セズ.

「エ」嗜好球 術前及ビ術後1日目ハ0.5%ニテ減少ヲ示シタルモ3日目以後ハ增加ノ傾向ヲ辿リ21日目ニハ10.0%ニ達シタリ.

肥胖細胞 術前術後消失3日目出現セルモ其ノ後著變ナシ.

白血球百分率ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ一定ノ關係ヲ認メズ.

平均核數 術前2.09ニテ正常數ヲ示シ術後1.72ニ減ジ3日目2.0ニ增加セルモ5日目再ビ1.81ニ減ジ以後ハ徐々ニ核數ヲ增シ21日目2.0トナリ正常ニ復歸セリ. 沈降速度トノ關係ヲ見ルニ3日目迄平均核數ノ動搖セル間ハ特別ノ關係ナキモ5日目以後ハ全ク負ノ關係ヲ保チ竝行シ恢復スルヲ見ル.

第 9 例

患者　村○清○郎，男，49歳.

1937年6月23日入院－7月8日全治退院.

主訴　右側腹部ノ腫瘍.

現病歴　昨年11月突然上腹部ニ疼痛アリ．疼痛ハ漸次廻盲部ニ限局シ來タレリ．其ノ後同部ニ鷄卵大ノ腫瘍ノ存在ニ氣付キタリ當時體溫38°C嘔吐ナシ．數日ノ醫療ヲ受ケ腫瘍ノ消退ヲ見タリ．本年3月再ビ同部ニ疼痛發作アリ同時ニ腫瘍ノ腫大ヲ氣付キタルモ濕布ニヨリ輕快セリ．本年6月2日3回目ノ發作アリ，當科ニ來ル.

現症　一般症狀可良，腹部ハ廻盲部ニ鷄卵大ノ腫瘍ヲ觸レ壓痛アリ．腫瘍ハ限界明瞭，稍可動性ナリ，波動ヲ證明セズ.

診斷　盲腸周圍炎.

手術及ビ手術所見　6月24日施行，熊埜御堂教授執刀．局所麻醉，右直腹筋外切開．廻盲部ハ大網膜ニ包裹サレ右側腹部ニ堅ク癒着ス．蟲樣突起ハ超拇指頭大ニ腫脹肥厚シ大網膜ニ完全ニ覆レ後腹膜ニ緊ク癒着ス．突起ノ中央部ニ穿孔ヲ認メ周圍ニ膿瘍ヲ形成シ居ルモ膿汁極少量，蟲樣突起ヲ切除シ膿瘍部ニ「チガレツテンドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル.

經過　術後數日輕度ノ熱發ヲ見タルモ一般症狀可良，極ク順調ニ經過シ15日目手術創ノ閉鎖ヲ見16日目全治退院ス.

血液所見　第10表第9圖

沈降速度　術前19.0mm 1時間値ニテ强度促進ノ狀態ナリ．術後ハ3日目僅ニ增加シテ23mm, st トナリ以後ハ順調ニ恢復シ16日目13.5mm, st トナレリ.

白血球數　手術前9500，術後16800ニ增加セシガ3日目5200ニ激減シテ正常數ニ入リ以後ハ生理的正常數値內ヲ動搖セリ.

沈降速度トノ關係ヲ見ルニ一定ノ關係ヲ發見シ得ズ.

赤血球數　手術前401万，術後431万トナリタルモ以後退院迄僅少ノ增減ヲ見タルノミ.

血色素量　術前71%，術後稍增加シタルモ著變ナシ.

白血球各種百分率　術前ハ正常ノ百分率ヲ示シ術後1－3日目ハ中性嗜好球ノ增加淋巴球ノ減少ヲ認メ6日目正常率ニ復歸シ以後ハ時ニ相對性淋巴球增多症ヲ見タリ.

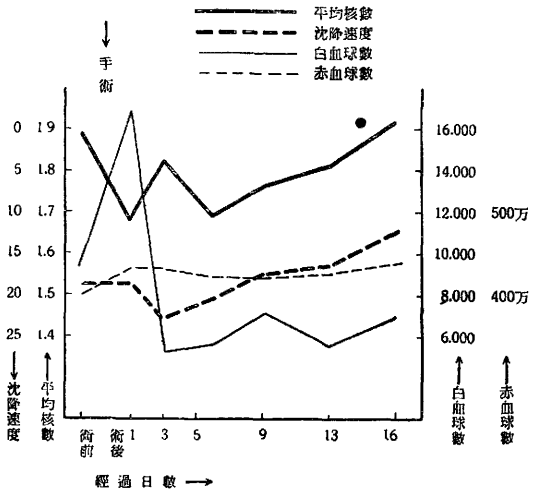
大單核球　術前術後ハ1.0—1.5%ニテ減少シ居リタルモ3日目7.5%トナリ其ノ後ハ著變ナシ．「エ」嗜好球術後消失ヲ見タルモ9日目出現シ以後僅ニ增加ス.

第10表　沈降速度及ビ血液像　第9患者　村○清○○　男　49歳

經過日數	白血球數	赤血球數	ヂ血ール色素量	沈降速度 1時間	沈降速度 2時間	白血球各種百分率 觀察數	中嗜性好	淋巴球	大核單球	「エ」好嗜球	肥細胞	肝髓型	プラスマ細胞	核 觀察數	核 1型	核 2型	核 3型	核 4型	核 5型	平均核數	備考
手術前	9.500	401万	71%	19.0	21.5	200	63.5	32.5	1.0	1.5	1.5	0	0	100	33	47	18	2	0	1.89	
術後 1	16.800	432万	75%	19.0	21.0	〃	92.0	5.5	2.5	0	0	0	0	〃	42	48	10	0	0	1.68	輕度熱發アルモ一般症狀可良
3	5.200	432万	72%	23.0	24.8	〃	75.0	17.5	7.5	0	0	0	0	〃	36	48	14	2	0	1.82	4日目ドレーン除去
6	5.620	422万	75%	20.5	22.5	〃	69.8	25.0	5.5	0	0	0	0	〃	44	43	13	0	0	1.69	
9	7.160	422万	73%	18.0	20.0	〃	32.5	61.5	5.5	0.5	0	0	0	〃	38	48	14	0	0	1.76	本日半拔糸10日目全拔糸
13	5.760	426万	75%	16.5	18.8	〃	58.0	35.5	5.0	1.5	0	0	0	〃	42	36	21	1	0	1.81	15日目手術創閉鎖ス全治退院
16	6.800	434万	76%	13.5	16.5	〃	60.0	32.5	5.0	2.0	0.5	0	0	〃	37	37	25	1	0	1.90	

第11圖 血液像及ビ沈降速度

第9患者村 ○清○○，男.



肥胖細胞 術前1.5%，術後永ク消失シ16日目ニ出現セリ．沈降速度トハ特別ノ關係ナシ．

平均核數 術前1.89，術後1.68ニ減少セルモ3日目1.82ニ增加シ6日目再ビ1.69ニ減ジ以後ハ漸次增加シ13日目1.81，16日目1.90トナリ正常ニ近ケリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ術後平均核數ノ動搖セル間ハ速度ハ只增加ノ一途ヲ辿リ5日目以後漸次恢復ニ向フ際ハ兩者ハ全ク並行ス．

第4節 總括及ビ考按

前節ニ述ベタル膿瘍ヲ形成セル蟲樣突起炎患者5名ニ於ケル手術前後ノ白血球數，赤血球數ザーリー血色素量，白血球各種百分率，平均核數ノ總平均ヲ示セバ第11表第12圖ノ如シ．

今血液所見ヲ總括スレバ次ノ如シ．

第1項 沈降速度

手術前ノ沈降速度ハ最小5.4mm st，最大21.0mm st平均15.3mm stナリ．然シ入院直後ノ平均ハ16.6mm stニシテ限局性腹膜炎ヲ伴ヘル急性ノモノノ平均15.2mm stニ比シ一段ト沈降速度ノ亢進セルヲ認メ得．然シ各例別ニ之ヲ見ル時，第7例ハ5.4mm stニテ全ク正常値ヲ示シ第5例ハ13mm stニテ輕度ノ促進ヲ示シ其ノ他ハ强度ノ促進ヲ示セリ．斯ノ如ク膿瘍ヲ形成セルニ抱ラズ沈降速度ガ正常又ハ輕度ノ促進狀態ニアルハ Stemmler ノ說明セル如ク，化膿症狀永ク持續シテ周圍ニ對シ結締織性ノ墻壁ヲ形成シ膿ノ吸收ガ減退スレバスル程沈降速度ハ益々遲延シテ遂ニハ膿瘍ノ尙存在スルニ抱ラズ正常ノ値ヲトルモノト解シ得ベシ．特ニ第6例ノ場合入院時25mm stヲ示シ最强度ノ促進狀態ニアリシモノガ保存的療法ニ依リ腫瘍ノ縮小固定ト共ニ沈降速度モ亦18.0mm stニ遲延シ來レルヲ見テモ此ノ說ノ妥當ナルヲ知リ得．

手術後ハ何レモ亢進シ3日目最高値ヲ示シ平均22.6mm stトナリ其ノ後ハ病狀輕快ニ並行シテ漸次遲延シ早キモノ16日目正常値ニ近キタルモ多クハ尙中等度促進ノ狀態ニアリキ．之ヲ急性ノモノニ比較スルニ術後ハ大體同樣ノ經過ヲトリ，著シキ差異ナキヲ認ム．

第2項 白血球數

術前最小5350—最大14320，平均9658ナリ．卽チ輕度ノ增多症ヲ呈セルモノ2例，他ノ3例ハ正常數ヲ示シタリ．術後ハ1日目全例トモ增加ヲ來シ平均17880ニ激增セルガ其ノ後急激ニ減少シ3—5日目ニ正常ニ復歸シ以後生理的正常數値內ヲ動搖セリ．沈降速度トハ一定ノ關係ヲ見出シ得ズ．

第3項 赤血球數

術前最小350萬，最大475萬，平均426.2萬ニシテ輕度ノ減少ヲ示セリ．術後1日目ハ全例共ニ多少增加シ平均461.8萬トナリ3日目ハ著シク減少シテ396.5萬トナレリ．其ノ後ハ漸次增加シ13日目大體術前値ニ近ヅキ以後ノ經過ニ於テハ稍增加セリ．沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第8—9例ノ如ク全經過ニ亘リ著變ナキモノアルモ他例ニ於テハ兩者ガ負ノ關係ヲ持チ大體並行スルヲ認メ得．

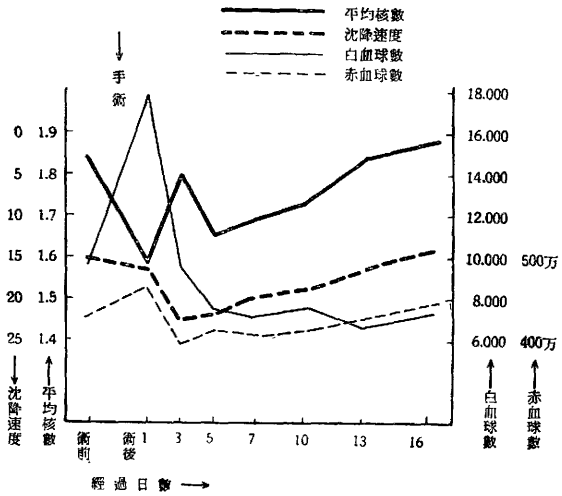
第4項 血色素量

手術前最小71%，最大90%，平均80.2%ニシテ限局性腹膜炎ヲ伴ヘル急性ノモノ87%ニ比シ減少セルヲ見ル．術後ハ全ク赤血球數ト增減ヲ共ニシ術後一時平均84%ニ增加シ3日目74.8%ニ減少．以後ハ徐々ニ增加シ16日平均77.2%ニ增加セリ．沈降速度トハ赤血球數ト同樣ノ關係ヲ認メ得．

第11表　沈降速度及ビ血液像　第(5－9)例ノ平均表

經過日數	白血球數	赤血球數	ザ血ヘモグロビン色素量	沈降速度 1時間目	沈降速度 2時間目	白血球各種百分率 中性嗜好	淋巴球	大單核球	「ヱ」嗜好球	肥胖細胞	骨髄型	プラズマ細胞	平均核數
手術前	9.658	426.2万	80.2%	15.3	19.0	64.9	28.8	4.5	1.2	0.5	0	0	1.824
術後 1	17.880	461.8万	84.0%	16.7	19.2	86.1	10.4	3.2	0 2	0.2	0	0	1.586
3	9.576	396.5万	74.8%	22.9	24.6	74.6	20.1	4.1	0.9	0.3	0	0	1.796
5	7.456	416.6万	77.4%	21.8	23.6	60.0	31.8	4.7	3.0	0.4	0	0	1.656
7－	7.268	409.2万	77.2%	20.1	22.3	47.0	46.2	3.6	2.8	0.4	0	0	1.698
10－	7.480	410.0万	75.8%	19.3	21.4	48.6	39.3	5.8	4.0	0.9	0	0	1.736
13－	6.724	425.2万	75.8%	17.2	20.0	48.9	40.3	5.7	4.4	0.3	0	0	1.836
16－	7.350	440.4万	77.2%	14.8	19.0	49.7	41.0	4.7	3.0	1.5	0	0	1.876

第12圖　第11表圖示



第5項　白血球各種百分率(第13圖參照)

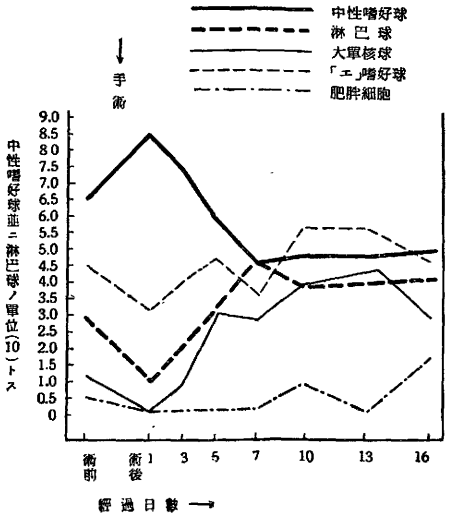
術前中性嗜好球49%—79%，平均64.9%，淋巴球ハ14.5%—40.5%，平均28.8%，大單核球1%—6.5%，平均4.5%，「ヱ」嗜好球0%—4%，平均1.2%，肥胖細胞ハ0—1.5%，平均0.5%ニシテ大體平均ニ於テ正常率ヲ示シ，術後ハ1日目著シキ中性嗜好球ノ增加，淋巴球ノ減少ヲ來シタリ．然シ3日目ニハ反對ノ道程ヲ經テ大部分ハ急激ニ正常率ニ復歸シ只第8例ノミ5日目迄淋巴球ノ減少ヲ認メ，其ノ後ノ經過ニ於テハ稍相對性淋巴球增多症ノ傾向ヲ見タリ．

大單核球ハ術後輕度ニ減少シタルモ著變ナク「ヱ」嗜好球ハ術後消失或ハ減少ヲ見セ平均0.2%トナリタルモ以後時日ノ經過ト共ニ增加シ10—13日目ニハ平均4.0—4.4%ヲ示シタリ．肥胖細胞ハ術後出現消失不定ニシテ著變ナク骨髄細胞及ビ「プラスマ細胞ハ全經過ヲ通ジ遭遇セザリキ．

第6項　平　均　核　數

術前最小1.62，最大209，平均1.824ニシテ輕度ノ核左方移動ヲ示シタリ．之ヲ曩ニ報告セル急性蟲樣突起炎ノ1.76及ビ限局性腹膜炎ヲ伴ヘ

第13圖 第11表圖示
(白血球各種百分率)



ルモノ1.675ニ比較セバ著シキ核數增加セルヲ見ル．術後1日目ハ全例共ニ核數ノ減少ヲ見セ平均1.586トナリ3日目急增シテ1.796トナリ殆ンド術前値ニ近キタリ．然シ5日目再ビ減少シテ1.656トナリ其ノ後ハ順調ニ漸次核數ヲ增加シ早キハ13日目正常數ニ近ヅキ他ハ16日目平均1.876ニ達セリ．術後減少セル核數ノ正常ニ復歸スル迄ニ要スル時日ハ大體前節ニ述ベタル急性ノモノト同樣ナルモ，只術後1—5日間ニ經過セル平均核數ノ動搖ハ著シク大ナルヲ見ル．

次ニ沈降速度トノ關係ヲ見ルニ第2節ニ述ベタル急性ノモノガ一部ハ最初ヨリ，一部ハ沈降速度ノ完全ニ亢進セル3日目ヨリ良ク竝行スルニ反シ本例ニ於テハ術後5日目迄平均核數ガ著シキ動搖ヲナスヲ以テ此ノ間沈降速度ト一定ノ關係ヲ求メ得ズ．然シ其ノ後順調ニ恢復スル道程ニ於テハ良ク沈降速度ト竝行シ，核數ノ增加ト共ニ速度ノ遲延ヲ見タリ．

第3章 本編ノ總括及ビ考按

本編ニ於テハ蟲樣突起ニ限局セル炎症ガ更ニ進展シ milliare, Perforation ヲ招來シ或ハ蟲樣突起壁ガ壞疽又ハ壞死ニ陷リ大ナル穿孔ヲ來シタルモ幸ヒ防禦的癒着ノ存在ノ爲限局性腹膜炎ヲ招來スルニ止マリタル急性ノ蟲樣突起炎及ビ稍慢性ノ經過ヲトリ膿瘍ヲ形成セルモノニ就キ，手術前後ノ沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ヲ檢索セリ．然シテ此等ノ總括的觀察及ビ考按ニ就キテハ第2節及ビ第4節ニ既ニ詳述セル所ナリ．故ニ重複ヲ避ケ沈降速度及ビ血液像ニ就キ簡單ニ記述スベシ．炎症性疾患ニ於テ沈降速度ノ促進スルコトハ Fahraeus, Linzenmeier ニ認メラレシヨリ現今ハ凡テニ承認サレシ所ニシテ，之ガ促進ノ程度ニ關シテハLöhr, Rothe, Mensch, Stemmler, Sonntag, Dahle, Woytek, 泉山，木村，杉山等ハ炎症ノ强サ及ビ廣汎ニ關係シ，或ハ破壞產物ノ吸收ノ度ニ比例スト說ケリ．故ニ蟲樣突起ノミニ限局セル急性蟲樣突起炎ニ比シ炎症强烈ニシテ更ニ病機進展擴大セル本例ニ於テハ其ノ破壞產物ノ吸收モ亦增大サル可ク，爲ニ沈降速度ノ促進ガ前者ニ比シ一段ト强度ナルベキハ自明ノ理ニシテ，我ガ實驗結果ニ於テモ前者ノ平均7.2mm st ニ對シ後者ハ各々15.2mm st (急性) 16.3mm st (膿瘍) ヲ示シ諸氏ノ說ト全ク一致セル結果ヲ得タリ．

然シ限局性腹膜炎ヲ伴ヘルモノニ於テモ尙例外トシテ正常又ハ正常ニ近キ輕度ノ促進ヲ示スモノアルハ Jeseph-Marcus, Woytek, Stemmler, Dahle 杉山等ノ認ムル所ニシテ余ノ例ニ於テモ前節記載ノ如ク數例ヲ認メタリ．之ハ實ニ，一ツハ沈降速度ガ促進ヲ來ス爲ニ發病後一定時間(24時間以上)ヲ要スル爲ト一ツハ慢性トナリ化膿病狀ガ永ク持續セバ周圍ニ堅キ墻壁ヲ形成シ膿ノ吸收ガ全ク減退スル爲ニ生ズルモノニシテ Schurmam ノ如ク全體トシテ沈降速度ガ何等病的狀態ト竝行セズト說クガ如キハ甚ダ妥當ナラズト信ズ．

次ニ手術後ノ經過ニ就キテハ Deuber, Lähr,

Rath, Joaepf-marcus, Haselharst, Stemmler, Woytek, 木村, 杉山等ハ一般ニ治癒經過ト竝行シテ遲延スト云ヘリ. 余ノ實驗結果ニ於テモ術後一時增加シ以後ハ順調ニ治癒經過ニ竝行シ遲延シ正常ニ復セリ. 之ヲ合併症ナキ蟲樣突起炎ト比較スルニ最高値前者ハ 17.9mm st, 後者ハ各 22.2mm st, 22.9mm st ニシテ正常ニ復歸スルニ要スル日數ハ前者10—18日, 後者ハ早キモノ13日(1例), 他ハ16日目尙中等度ノ促進ヲ示シタリ. 卽チ本例ハ前者ニ比シ沈降速度ノ促進一層强度ニシテ正常ヘノ復歸モ亦一段ト遷延セリト云フベシ. 之ハ本例ガ前者ニ比シ炎症一層强烈ニシテ廣汎ナルヲ見レバ當然ノ結果ト云フベシ.

白血球數並ニ血液像ニ就テハ Carschmann, Arneth, Schilling, Küber, Sonnenbürg, Kathe, Elsbach, Carlson-Wilder, 大場, 下妻, 赤井, 赤岩, 杉山等其ノ他多數ノ業績アリ. 何レモ急性蟲樣突起炎ニ於ケル白血球增多症, 各種百分率ノ變化卽チ中性嗜好球ノ增加, 淋巴球ノ減少, 「ヱ」嗜好球ノ減少消失等, 並ニ核移動ノ程度ハ續發性腹膜炎ヲ惹起セバ更ニ高度ニ及ブト云ヒ, 炎症過程稍慢性ニ移行シ膿瘍ヲ形成スル場合, 周圍ニ對スル墻壁完成シ周圍トノ隔離充分トナルヤ, 既存ノ白血球增多症, 白血球百分率ノ變化並ニ核移動ハ漸次正常ニ復スト云ヘリ. 余ノ實驗結果モ全ク上記諸氏ノ說ト一致セル結果ヲ得タリ.

然シテ初診時ニ於ケル沈降速度ト血液像ノ價値ニ就テハ曩ニ緖論ニ於テ述ベシ如ク Vogt, 杉山氏等ハ急性蟲樣突起炎ニ於テハ血液像ハ沈降速度ヨリ價値ヲ有シ慢性疾患ノ際ハ沈降速度ガ血液像ヨリ精確ナル指針タルコトヲ指摘シタリ. 我ガ實驗結果ニ就キ觀察スルニ急性炎症ニ於テハ沈降速度正常又ハ輕度ノ亢進ヲ見ル時ニ於テモ血液像及ビ白血球數ハ著明ニ變化シ良ク病變ト一致シ, 慢性トナリ膿瘍ヲ形成セル場合ハ血液像ノ變化ハ輕度ナルニ反シ沈降速度ハ强度ニ促進セルヲ見全ク Vogt, 杉山等ト同一ノ所見ヲ得タリ.

次ニ術後ノ血液像特ニ中性嗜好白血球ノ平均核數ト沈降速度ノ關係ヲ詳細ニ觀察セルモノ余寡聞ニシテ未ダ知ラズ, 此處ニ重複ヲ厭ハズ記載セン.

卽チ急性ノ場合ハ一部ハ術前術後ノ全經過ニ亘リ大體竝行シ他ハ術後沈降速度亢進シテ全ク病狀ト一致セルニ至リシ以後卽チ3日目以後ハ治癒經過ニ伴ヒ相竝行シテ正常ニ復歸ス. 慢性ノ場合ハ術後5日目迄平均核數ハ大ナル動搖ヲナシ, 沈降速度ハ促進ノ一途ヲ辿ルヲ以テ一定ノ關係ヲ見出シ得ザルモ, 其ノ後ノ經過ニ於テハ全ク兩者竝行シテ恢復ス, 然シ急性慢性何レノ場合ニ於テモ平均核數ノ恢復ハ沈降速度ニ比シ一段ト急速ナリ.

結　論

急性限局性腹膜炎ヲ伴ヘル蟲樣突起炎患者4名及ビ稍慢性トナリ膿瘍ヲ形成セル患者5名ニ就キ手術前後ノ全經過ニ亘リ赤血球沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ヲ檢索シ次ノ結論ヲ得タリ.

1. 沈降速度ハ手術前兩者共正常又ハ輕度ノ促進ヲ示スモノアルモ多クハ强度ノ促進ヲ示シ合併症ナキ蟲樣突起炎ニ比シ著シク促進ス. 術後ハ何レモ尙促進シ3日目最高ニ達シ以後治癒經過ニ竝行シ遲延シ早キハ13日目正常ニ復歸スルモ多クハ全治退院前(21日目頃)尙中等度ノ促進ヲ示セリ.

2. 白血球數ハ急性症ニテハ最小 11160, 最大 21360, 平均 16470 ヲ示シ慢性症ニテハ最小 5350, 最大 14320, 平均9658ナリキ.

術後急性症ハ減少ヲ續ケ3—10日目迄ニ正常數ニ復シ, 慢性ノ場合ハ術後急增シテ平均17880トナルモ3日目激減シテ早キハ同日遲キモ10日目迄ニ正常數ニ復歸セリ.

3. 赤血球數　急性症ニテハ424—460萬, 平均 446.5萬, 慢性症ハ350—475萬, 平均 426.2萬

ニシテ術後ハ一時増加セルモ3日目著シク減少シ其ノ後徐々ニ増加シ退院前ハ術前値ヲ超過セリ.

4. 血色素量　急性症ニ於テハ78%—96%, 平均87%, 慢性症ハ71%—90%, 平均80.2%ナリキ.

術後ハ大體赤血球數ト増減ヲ共ニシ同様ノ經過ヲトリタリ.

5. 白血球各種百分率　急性症ニ於テハ中性嗜好球ノ増加, 淋巴球ノ減少, 「ヱ」嗜好球ノ消失或ハ減少, 肥胖細胞ノ消失ヲ見, 慢性症ハ正常率ヲ示セリ.

術後ハ一時兩者共中性嗜好球ノ増加, 淋巴球ノ減少, 「ヱ」嗜好球ノ消失ヲ見, 以後漸次正反對ノ過程ヲ經テ3—5日目正常率ニ復歸ヲ見其ノ後ノ經過ニ於テハ時ニ相對性淋巴球増多症ヲ見, 「ヱ」嗜好球ノミハ時日ノ經過ト共ニ輕度ノ増多症ヲ來セリ.

6. 平均核數　術前急性症ニ於テハ最小1.45—最大1.97, 平均1.675ニテ著シキ核型左方移動ヲ示シ慢性症ハ最小1.62, 最大2.09, 平均1.824ニシテ輕度ノ核型左方移動ヲ示ス.

術後　急性症ニ於テハ1日目尙輕度ノ減少ヲ來シ3日目ヨリ徐々ニ恢復シテ早キハ10日目正常ニ復シ遲キモ3週目正常數ニ近ケリ.

慢性症ハ術後一時著シク減少シ3日目急増シテ術前値ニ近ヅキ5日目再ビ稍減少シ以後治癒經過ニ竝行シ徐々ニ核數ヲ増加シ炎症ノ消退治癒ト共ニ正常ニ復歸セリ.

7. 全經過ヲ通ジテ血液像ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ, 沈降速度ト

I. 白血球數, 白血球各種百分率トノ間ニハ一定ノ關係ヲ認メ得ズ.

II. 赤血球數, 血色素量トノ間ニハ一定ノ負ノ相關々係ヲ認ム.

III. 平均核數ノ變化ハ急性症ニ於テハ術前術後ノ全經過ヲ通ジテ全ク病狀ニ一致シ術前强度ノ核數減少ヲ示シ術後ハ僅ニ減少ヲ見タル後炎症ノ消退治癒ト共ニ正常ニ復歸ス. 故ニ一部沈降速度ノ術前强度ニ促進シ病狀ト一致セルモノニ於テハ全經過ヲ通ジ平均核數ト竝行シ, 他ノ輕度ノ促進ヲ示セルモノニ於テハ術後促進シ病狀ト一致スルニ至リシ後卽チ3日目以後ハ全ク平均核數ト竝行シ治癒經過ニ從ヒ正常ニ復歸ス.

慢性症ニ於テハ平均核數ハ術後一時著シク減少シ3日目急増シテ術前値ニ近ヅキ5日目再度輕度ニ減少シ以後治癒經過ニ竝行シ正常數ニ近ヅク. 沈降速度ハ3日目迄促進ヲ續ケ以後徐々ニ遲延スルヲ以テ5日目以後ハ兩者ハ全ク竝行シテ増減シ疾病ノ治癒ト共ニ正常ニ復歸ス. 然シ何レノ場合ニ於テモ平均核數ノ恢復ハ沈降速度ニ比シ一段ト急速ニシテ, 炎症ノ消退治癒ト共ニ全ク正常ニ復スルニ反シ, 沈降速度ハ尙輕度或ハ中等度ノ促進ヲ示セリ.

文 獻 後 出